

@幸せな贈り物

疎通のはじまり 疎通は私のためのものでなく、あなたのためのもではありません。私たちみんなのためなのです。なぜなら、私たちは一つの船に乗っているからです。少し前、テグにあるホテルに立ち寄るようになりました。そこにかかっていた額縁の文字から、この時代の疎通はこのようにしたら良いのだなと思いました。「大きい叫びの声にも驚かないライオンのように堂々と、網にかからない風のように自由に、泥水にも汚れないレンゲのように超然として…」自分のアイデンティティと個性を守りながらともに行ける知恵、それが今日私たちすべてに必要な疎通のスタイルでないでしょうか。荘子を見ると、このような話が出ています。

疎通

網にかからない風のように…

顔闔（がんこう・魯の隠者）という人が、ある日、魏の国の太子の師匠になった後、蘧伯玉（きよはくぎょく）という人を訪ねて行って尋ねました。「ある人がいるのですが、彼は無礼で浅はかです。彼と一緒になにかを企てれば国が危険になる状況です。彼が持った知恵は他人の誤りをよく掘り起こすことに過ぎません。もちろん、彼自身の誤りはよくわからないのです。こういう人はどのように対しなければなりませんか」

蘧伯玉（きよはくぎょく）が答えて、「警戒と用心をしてください。そしてからだを正しく持ってください。態度は素直に従った方が良く、心は温和に持ちます。この2つのことをしても、用心しなければならないことがあります。素直に従っても、彼に引きずられて行ってはならず、従順を表わしてはいけません。従順に従う態度で他人に引きずられて行くなれば、結局、狼狽するようになってしまいます。反対に、相手が子どものようなならば、その人に合わせて子どものように行動してください。相手が自分自身の力ない人ならば、その人と一緒に分別なく行動してください。相手がまったく正しく把握できない人ならば、あなたやはり正しく把握できないように行動しなければなりません。これをよくやり遂げられるならば、どんな人に対しても問題がないでしょう」

このように、疎通とは、目の高さが同じであるときにはじまり、共同のビジョンが確認できるときにともにしながら、仕えることと愛を通して完成されるのではないのでしょうか。

疎通の実 まことの疎通は、すべての人にまことの感動と一つになることをプレゼントします。普段よく知っている知人から一通のメールを受けましたが、心にぱんとぶつかる感動を受けました。

ある人は、その人を称して「光を失ってさらに光る男」と言いました。結婚をして100日ほど過ぎた後、網膜色調変成症という不治の病で視力を失うようになったコメディアン イ・ドンウ氏の話です。

彼は、まずとても絶望的な状況の中でも、一度も不平を言わないで、愛によって仕えてくれる妻に感謝を伝えると言いました。その妻自身も脳腫瘍手術の後、大きい苦しみの中にあっただのですが、妻を通してまことの愛と疎通を悟ったと言いました。そして、妻を通してまことの愛のイエス様に会った後、まことの希望の涙を流したということです。

イ・ドンウ氏が伝えてくれた感動の理由はこのようでした。

イ・ドンウ氏の視力喪失の理由を聞いたチョンアンに住んでいる40代男性が目を寄贈するという意思を明らかにしてきました。嬉しい思いでかけて行ったのですが、ドンウ氏は目の寄贈を受けなくて、そのまま戻ってきました。「なぜそのまま戻ったのですか」「はい、すでに受けたのと同じです。その方は私に世の中を見る目をくださったためです」

目を寄贈するというその男の人は、筋肉の病気の患者でした。

からだを動かすことができなくて、ただ健全なところは目しかありませんでした。

ドンウ氏が話しました。「私は一つを失って残り九を持っている者なのに、その方はただ一つ残っていることすら与えようとしたのです。どのようにそれをくださいと言えますか」

疎通の中の疎通

疎通は配慮を越えて相手に対する愛で、そして、その愛を越えて自分をささげる犠牲として現れます。

それがまた聖書が人間に伝えたかった神様の愛の物語「福音」です。人間が解決できない不幸の遺産に対する無条件的な神様の愛、その証拠は次のとおりです。

「しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。」(ローマ5:8)

「あなたがたの間では、そのような心構えでいなさい。それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。人としての性質をもって現われ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました。それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもののすべてが、ひざをかがめ、すべての口が、「イエス・キリストは主である」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。」(ピリピ2:5-11)

「愛する者たち。私たちは、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた互いに愛し合うべきです。」(1ヨハネ4:7-11)

上に神様と通じて、下へ人と通じる人だけが21世紀のまことのリーダーになることができます。それが十字架が伝えてくれる疎通の奥義です。そして、あなたがまさにその主人公なのです。

福音

神様と疎通する道

聖書が話す**本来の人間**は、神様のかたちとして創造されて、神様と交わりながら、この地を征服して治める権威と祝福を受けました。魚が水の中に、鳥が空中に、木が土地に根をおろしているのちを得るように、神様のかたちとして創造された人間は、神様とともにいるとき、永遠ないのちとまことの幸せを保証されました。

しかし、人間はサタンという霊的存在の策略にだまされて、神様を離れるようになって、罪と呪いと死の問題に陥り、深刻なむなしさと不安の中で生きるようになりました。ときには宗教を通して、とき時には多くの思想と哲学によって、ときには善行と救済によって突破口を探してみるのでありますが、**人間の根本問題**は決して解決することはできませんでした。

人間に何の希望もないとき、神様は人間に向かった**救いの門**を開けてくださいました。神様に会う道になるまことの預言者として、罪の問題を解決されたまことの祭司として、サタンの権威を打ちこわしたまことの王としてこの世にイエス・キリストを送ってください、人間が解決できなかった根本問題とすべての問題を十字架で死んで復活されることによって、完全に解決してくださいました。

どのようにすれば良いのでしょうか。イエス・キリストを「私の救い主、私の神様」として**受け入れ**なければなりません。だれでも「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。」(ヨハネ 1:12)と約束されて「『主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる』のです。」(ローマ 10:13)と約束してくださいました。ローマ 10章 9-10節を見れば「なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。」と言われました。今、この時間、神様があなたの心のとびらをたたいておられます。「見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。」(黙示録 3:20)まさに今、キリストがあなたの心の中に入って来られるように、**真実な思いで受け入れる祈り**をすれば良いのです。

このとき、イエス・キリストを通して神様が永遠にともにおられるようになる祝福を味わうようになります。イエス・キリストを通して罪に対する赦しと解放を受けるようになって、聖霊でともにいてくださる神様の働きを体験するようになります。そして、どんな環境の中でもあなたのすべての生活は神様の導きを受けるようになって、神様がくださる祈りの答えと力で強固な人生を生きていくようになります。そして、天国の民として、堂々と御使いの保護を受けながら、家庭と家系と現場を生かして、世界を生かす最も価値ある生活を生きていくようになります。神様の子どもになったあなたが行く所ごとに、暗やみの勢力は崩れて、神の国の祝福を味わう証拠が現れるようになるのです。これが神の子どもに与えられた祝福であり、権威です。

神様の子どもになる 受け入れの祈り



愛の父なる神様。私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してくださいました。今、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子どもの 毎日の祈り



父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



宗教の根源を 探して

人間の背後で失敗と苦しみを作り出す、目に見えないサタンは、宗教を通して働く。ご自分のかたちに人間を造って祝福してくださる神様の権威に挑戦するサタンは、自らの方法である古くなった神話を通して準備してきて現在も多様な宗教運動を通して具体的に現れる。最初の人間を、食べてはいけない善悪の知識の木の実で惑わして失敗させて、ノアの洪水事件以後、再びこの地で増え広がった人間にシヌアルの平地に集まってバベルの塔を築かせ、神様に挑戦するようにさせた。古代バビロンの絶対君主だったニムロドと彼の妻であるセミラミスから始まった宗教は、こんにちまでもすべての宗教の根源になっている。ニムロドは後日、バベルの塔を建設した罪によって神様の審判を受けて死ぬようになったのだが、彼らは最初の神人、すなわち肉体を持っていながら強力な超能力を通して神のように見られる効果を演出した。ニムロドが死ぬようになって、彼の妻であり、自らを天の女王だと自称した、極度に邪悪なセミラミスは、少し後、私生子を産んで、この子どもをニムロドが生まれ変わったものと紹介する。夫が死んで自分が味わった王侯の権威が不安に

なって私生子を産み、ニムロドが生まれ変わったことだとし、もう一度、その息子と結婚して王侯の権威を継続したのだ。セミラミスが産んだ私生子が、まさにタンムーズだ。当時、バビロンが世界国家だったので、バビロン宗教が全世界に広がっていった。ニムロドは太陽の神で、セミラミスは月の神で、彼の息子タンムーズは「太陽神の息子、あるいは太陽神の化身」として崇拝されるようになる。父、母、息子が三つの神聖を持ちながら、一つに結びついた単性がエジプトの太陽神であるラーである。このバビロン宗教がエジプトへ渡って、オシリス、イシス、ホルスの神話になったのだ。そうして、バビロンでは、イシュタルとアスタルで、イスラエルではアシェラとアシュタロテとバアルで、エペソと小アジアではダイアナとアルテミス、ギリシャではガイアで、インドではカーリーで、ニムロドとその息子タンムーズの妻だったセミラミスは、その後すべての女神崇拝の起源になって、バビロン宗教と混ざり合ったカトリックでは、マリア崇拝思想に連結している。ヨハネの黙示録で描写している「淫女」あるいは「獣に乗った女」(黙示 17:3)がまさに淫女セミラミスに対する別の名称だと言える。今日、すべての宗教を統合する新時代世界宗教運動が急に起きている。政治、経済、文化を通して人々が知らない方法で巧妙に私たちの時代を混乱に陥れている。バビロンの神秘宗教が東洋の心霊技術と混ざり合って、瞑想、ヨガ、弛緩療法、催眠術、超能力療法、マインドコントロール、自己暗示、積極的思考等で人々をより一層さまよわせている。

人には霊があるが、それが神様を求めようになる原因だ。ただ神様だけで満足するしかない存在が人間だ。ところが、暗やみは神様がなくても自由でできるという失敗の論理と方法で、永遠になれない誘惑を今でも堂々と行っているのだ。神様の唯一の方法は、ただイエス・キリストを通した、単純だが完全な救いだ。神様を離れたら、神様に会わなければならない単純さを捨てて、苦難と修行の長い過程を探すようにする宗教の根源は、サタンの策略だ。いままでだまされてきたのだから、だまされずに救われるように願う。

チョン・ヒョングク(福音コラムニスト)

* 相談したい方はこちらまでどうぞ